



東京成徳大 岩井 拓巳投手(3年)

東京成徳大のエース岩井拓巳(3年)は、相手の4番打者、主将の関遼輔(3年)を打席に迎えた。3点リードされた九回表一死二塁、もう一点もやれない。この日、関には2四球を与え、2点適時打を含めて被安打2。「何かなんでも抑えて」。カウント2-2から全力で腕を振ると、関のバットが空を切った。続く打者も見逃し三振に仕留め、ピンチを切り抜けた。

二松学舎大付にリベンジする。1年間、ずっと思い続けてきた。昨夏の独自大会2回戦で対戦し、0-10で六回コールド負け。岩井は三回からリリーフで登板したが、12安打を浴びた。「どこに投げて打たれた」。関とも対戦し、このときは敬遠だった。

「同じチームに2度は負けない」。

〓都営駒沢

リベンジ誓い成長見せた



春の都大会8強の八王子に、一回から大量得点を許した国分寺。コールド負けが近づいた五回、代打の一振りで意地を見せた。

五回表一死二塁、打席には代打者斎藤春輝(2年)。初球、待っていた内角の球を振り抜いた。左翼に飛んだのはわかり、全力で走った。50メートル、6・9秒。速くない自覚がある分、必死に走った。二塁を回ると、三塁側スタンドが見えた。やけにうるさい。「さーっ」と。高校初の本塁打だった。

〓スリーポンド八王子

代打の意地 高校初の本塁打

国分寺・八王子 五回裏、八王子・新田が適時打で生還。スリーポンド八王子。

延長十一回。走者一掃の3点二塁打に、高島のマネジャー尾崎美優(3年)はスコアシートを挟んだ。選手と一緒に右腕を突き上げ叫んだ。

1歳の時、重い心臓病と判明した。「心不全を起こす可能性がある」。激しい運動が禁じられ、中学までスポーツとは無縁だった。

高島の野球部に憧れたのは中学3年の秋。全力で白球を追いかけたい選手たちに、自由自在に動き回る自分の姿を投影していた。

合格し、野球部に。だが毎日ク

運動できぬ自分 選手成長が幸せ

タクタになった。朝5時半に自転車に乗って朝練へ。帰宅は夜。制服のまま眠ってしまうことも。母久美子さん(49)は「退部しちゃうかもと心配し、でも続けても体がもつのかハラハラしていました」。

演劇部を途中でやめてしまった中学時代を尾崎は後悔していた。「高校では部活をやり抜く」と誓っていた。目の前で見つめる選手たちの成長と、時折かけられる感謝の言葉が幸せだった。監督だけでなく、高野連の役員たちからも信頼されるマネジャーとなり、い

高島 尾崎 美優 マネジャー(3年)

ま最後の夏を迎えている。後輩たちに伝えたいのは、「マネジャーって本当に楽しいよ」。でもその前に、チームのみんなが誓った夢がある。「甲子園で高島の校歌を歌います。きっと」(抜井規泰) 〓江戸川区